

## ■開催概要

- シリーズ名称 : 2021 鈴鹿クラブマンレースRound 1
- 主催 : 淀レーシングクラブ(チーム淀)、鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- 協力 : ARC、KRHC、ARCN、OCCK、AASC .....
- 後援 : 国土交通省(F4クラス)
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2021-3001
- 会場 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催レース : 総参加台数/110台  
F4/12台  
クラブマンスポーツ/31台  
FIT 1.5 Challenge Cup/13台  
フォーミュラEnjoy/17台  
スーパーFJ/22台
- 併催クラス : サーキットトライアル/15台
- 開催日 : 2021年2月28日(日)
- 天候/路面 : 曇り/ドライ



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/2021/clubman/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2021/clubman/)

## ■次回レース開催概要

- 開催日 : 2021年5月22日(土)、23日(日)
- 主催 : ARC、SMSC
- 会場 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース フルコース(5.807km)
- 開催クラス : スーパーFJ、FIT 1.5 Challenge Cup、FFチャレンジ、フォーミュラEnjoy、CS2/CS(VITA混走・60分耐久)



決勝ヒートを控えたパドックの様子。この日は大きなトラブルもなく無事全レースが消化された

## 2021年シーズンがいよいよ開幕! 史上初、レースはシリーズ全戦フルコースで実施!

例年に比べてもひと足早い2月28日(日)、2021年シーズンの鈴鹿クラブマンレース開幕戦が行われました。決勝当日は厚い雲が顔を出す時間が長く、午後の決勝ヒート開始時点で路面温度約16度。少し肌寒さを感じる一日となりました。

この日は午前中の公式予選が終わると、毎年恒例ながら、昨シーズンコロナ禍で中止となった2020年シリーズ表彰の代替セレモニーを開催。ポディウム(表彰台)にて、レーシングスーツに身を包んだ表彰対象者が次々に登壇しました。表彰対象者のご家族をはじめとする関係者もホームストレートに招かれ、声援を送るとともに表彰台での姿を写真に収めていました。

今シーズンの大きな変更点となるのが、これまでも大きな支持を得ていたフルコースレースを適用。12月に予定されているファイナルまでの全7戦がフルコースで行われます。また、FIT 1.5 Challenge CupとフォーミュラEnjoyの年間2大会を岡山国際サーキットで実施。さらに鈴鹿クラブマンシリーズとしてVitzクラスが開催され「NゼロVitz鈴鹿・岡山シリーズ」の名で岡山、鈴鹿で計2戦ずつ行われます。

この日の開幕戦はクラブマンスポーツクラスで優勝した大八木龍一郎選手が公式予選でコースレコードを更新。午後からの決勝ヒートはF4クラス以外が、すべてポールtoウィンで勝負が決するなど、実力者が力を発揮するレース展開が多くみられました。また、午前と午後に第1ヒート、第2ヒートを行ったサーキットトライアルには15台がエントリー。多くのドライバーが鈴鹿サーキットフルコースを走り、2021年シーズンの開幕を実感したレースとなったに違いありません。



午前と午後で計2ヒート行われたサーキットトライアル。15台のナンバー付き車両がフルコースを走行した



## ■2020年シリーズ表彰の代替セレモニー



2020年シリーズ表彰の代替セレモニーを開催。写真はクラブマンスポーツ(上)、FIT 1.5 Challenge Cup(下)

## ■F4 Class

ポールポジションは鈴木智之がポールポジションを獲得。すると2番グリッドの宮下源都がエンジントラブルかフォーメーションLAPに向けて走り出すことができない。唯一、Hクラスで参戦している川原悠生は最後尾グリッドからのスタート。レースは2番グリッドが空いた状態で始まり、3番グリッドの元嶋成弥がホールショットを奪う。トップに躍り出た元嶋を鈴木、吉田宣弘が続く。6周目で元嶋は2番手を走る鈴木との差を広げ始める。さらに、2番手の鈴木と3番手の吉田との差は広がり始め、上位陣はそれぞれ単独でラップを刻んでいく。ファイナルラップとなり、鈴木は元嶋との差を詰めるもののテールtoノーズにまでは持ち込めない。元嶋が逃げ切って開幕戦を制することになった。



3番グリッドスタートで勝利した元嶋成弥。スタートダッシュの成功が大きかった



優勝は元嶋成弥、2位は鈴木智之、3位は吉田宣弘。それぞれ単独走行の時間が長かった



■F4 Class



Hクラスの表彰台に登壇した川原悠生選手。総合11位でフィニッシュした

## ■クラブマンスポーツ Class

大八木龍一郎がポールポジションを獲得。2番グリッドは大山正芳、3番グリッドは猪爪杏奈、4番グリッドはいむらせいじの順でレーススタート。大八木が順当にホールショットを奪うと大山、いむらせいじと続く。1位の大八木が逃げ始め、2位大山といむらせいじが2番手を争いバトルを繰り返す。すると、2番手以降は等間隔となりバトルは見られない。7番グリッドスタートの中里紀夫がじわじわと順位を上げ、7周目で八木智をパスして3番手に浮上する。レースはファイナルラップへ。レースはそのまま大八木がポールtoウィン。2位にいむらせいじ、中里と続いた。



大八木龍一郎がポールtoウィン。公式予選では2019年に更新されたコースレコードを塗り替えた



表彰式/副賞のダンロップ賞記念ボードを手に笑顔を見せる表彰台のドライバーたち



## ■サーキットトライアル(併催)

計15台がエントリー。午前に行われた第1ヒートのトップタイムはB3クラスの小嶋健太郎の2分15秒083、続いて高橋太一の2分27秒295となった。トライアル中に大きなトラブルはなく、午後の第2ヒートへ。午前中にトップタイムをマークした小嶋の走りに注目が集まったものの早々にピットインしてマシンを降りた。「想定していましたがガス欠の可能性も高く、早めにピットインしました。午前中にマークしたタイム更新が難しいとも判断したんです」(小嶋)。ベストタイムは第1ヒートに小嶋がマークした2分15秒083で決定した。



午後からのサーキットトライアル第2ヒートへ向かうマシン



表彰はB3とB2クラスが対象。B3の優勝は小嶋健太郎(右)、B2の優勝は酒井利恭(左)

## ■スーパーFJ Class

2020年シーズンのチャンピオンである岡本大地がポールポジションからスタート。ホールショットを獲得すると、続いて佐藤巧望、高木悠帆、富田自然、上野大哲らが追う。岡本はオープニングラップをトップで戻ると、早くも2番手の佐藤との差を1秒以上とする。3番手を富田が走り、高木、上野、小松と続く。高木は富田をパスして、4周目で3番手へ。小松、森山冬星の6番手争いがヒートアップ。佐藤、高木の2番手を懸けたバトルが白熱するとレースはそのままファイナルラップへ。岡本は独走のままポールtoウィン。佐藤は2位、3番手争いを制した高木が表彰台を確保。惜しくも4位となった富田自然、さらに上野大哲、小松響らの走るがレース全体を盛り上げた。



2020シーズンのチャンピオン、岡本大地が実力を発揮してポールtoウィン



岡本大地、佐藤巧望、高木悠帆が表彰台を獲得。岡本の速さが際立つレースだった



## ■フォーミュラEnjoy Class

山根一人がポールポジションを獲得。大川文誠、さらに亀蔵、辰巳秀一が上位グリッドに陣取りレースはスタート。好スタートの山根を追い大川が続くと、6番グリッドスタートだった芦田将吾がオープニングラップを3番手で終える好走を見せる。大川と芦田の2番手争いが激しくなるとトップの山根のアドバンテージが大きくなる。5周目で辰巳が2番手に浮上するものの、山根との差は約4秒と大きい。新設されたマイスターズカップのトップは総合8番手を走るRYUU MAOとなる。レースはそのまま山根がポールtoウィンの山根、2位は辰巳、3位はニューマシンで挑戦した永井秀和。マイスターズカップは総合8番手でフィニッシュしたRYUU MAOがウィナーとなった。



山根一人がポールtoウィンで開幕戦のウィナーに。ホールショットを奪うと、2位以降を寄せつけなかった



トップの山根は独走。辰巳秀一と永井秀和らによる2番手争いがレースを盛り上げた

## ■フォーミュラEnjoy Class マイスターズカップ



マイスターズカップは1位にRYUU MAO、2位に多屋貞一、3位は亀蔵となった



## ■FIT 1.5 Challenge Cup Class

ポールポジションは西尾和早、岡田拓二、松尾充晃、杉原悠太の順でグリッドに並び、レーススタート。西尾が好スタートを決める。1コーナーでいくつかのマシンに接触があり、荒れた展開になる。2番手を争い岡田、杉原がテールtoノーズとなると、トップの西尾は早くも単独走行へ。4周目のヘアピンで藺牟田政治のマシンが横転してしまいセーフティカーが導入される。トップは西尾、岡田、杉原、松尾の順で行われたセーフティカーランは残り2週の時点で解除となる。すると、リスタート直後、3番手を走る杉原が1コーナーで痛恨のコントロールミスをして順位を大きく下げる。レースはそのまま西尾がポールtoウィン。完勝と呼べる内容だった。



ポールtoウインを決めた西尾和早。一度もトップを譲らない安定した走りを披露した



優勝は西尾和早、2位に岡田拓二、3位は松尾充晃の結果となった

## Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った  
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答  
「Voice of Pick up Driver&Team」。

クラブマンスポーツClassで優勝。コースレコードも更新！

**大八木龍一郎** 選手 (DAISHIN★Progressx★萬雲塾)



公式予選において、コースレコードの2分24秒753を塗り替える2分24秒383をマーク。最高の開幕ダッシュを決めた

**Q: 決勝も完勝と言える内容でした。**

「公式予選でコースレコードも更新できてうれしいです。これまで鈴鹿は2位が最高で、私にとっても鈴鹿初優勝です」

**Q: 常にトップで逃げる展開でしたね。**

「ただ、自分が想像していたより前半で差を築けませんでした。でも、落ち着いて走り切れました」

**Q: 今シーズンのレース予定を聞かせてください。**

「鈴鹿クラブマンレース、OKAYAMAチャレンジカップレースがメインになると思います。また、これまで同様にスーパードラッグも走る予定です！」